

# TOKYO MAIL NEWS



輸送サービス労組 東京地本

JTSU-E TOKYO

2021.7.20  
No.006



HOME PAGE



TWITTER

7月20日  
東地申第1号

運転士による出区電車のドア開扉ならびに案内設定の  
取扱い変更の延期・見直しを求める緊急申し入れを行う！

現在、綾瀬運輸区、中野電車区、中野車掌区、大田運輸区において、7月期の定例訓練が行われています。その中で、8月1日からの試行として常磐緩行線、中央・総武緩行線、京浜東北線の一部の出区電車で、運転士がドア開扉を担当すること、案内設定も運転士が担当することになると周知されています。しかし、訓練においては取扱い変更について質問をするも「確認する」「支社に伝える」と詳細な取扱いが決まっていないことも多く、乗務員だけではなく指導担当からも8月1日から実施することへの不安な意見が出されています。

今回の取扱いの変更は、お客さまの利便性向上や、乗務員の働きやすさの向上及び今後のワンマン運転の導入等を見据えて、運転士によるドア開扉の試行を行い、取扱いの課題抽出等を目的にしているとされていますが、ドア開扉が遅くなることも想定されるうえに、どのように働きやすさが向上されるのかも不明確です。さらには、中野電車区、中野車掌区でも同様の説明がされていますが、実施時期や計画すら示されていない中央・総武緩行線のワンマン運転を目的にしていることから、職場では混乱が生じています。

この間「変革2027」のもとに様々な施策や制度の見直し、取扱いの変更などが行われています。環境の変化に対応していくために必要な変化は理解するものの、安全を前提にした輸送サービスの維持・向上も実現しなくてはなりません。しかし、現場の意見を踏まえない取扱いの変更や進め方に現場は疲弊と不満が蓄積しています。「変革2027」の正しい理念を実行するのであれば「変革」と同時にこれまでの各施策や取扱い変更を検証し現場の意見を汲み取らなければなりません。運転士や車掌のこれまでの役割や業務内容を検証していくことが必要であり、そのうえで詳細な取扱いの変更を検討していくことが健全な組織運営です。

今回の取扱い変更は準備不足であると指摘せざるを得ません。職場では度重なる取扱い変更の対応に追われています。試行といえどもお客さまに迷惑をかけることが想定される取扱いは看過できないことから以下の通り申し入れを行いました。

**1. 8月1日から実施予定の運転士による出区電車のドア開扉ならびに案内設定の取扱い変更は、準備不足であり輸送サービスの低下を招くことから実施時期を再考し、延期すること。**

**実施日ありきの取扱い変更は認められない！地本は現場の意見をもとに交渉に臨みます！**